

トピックス

豊中市民の「幸福度」を調査 ——くらしの豊かさ実感に関するアンケートから——

平田 誠一郎

とよなか都市創造研究所 研究員

1. はじめに

「幸せ」と聞いてみなさんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。日々健康に暮らしていること、家族が楽しく過ごしていること、友達とお喋りすること、美味しい食べ物が食べられること、仕事にやりがいを感じることに、趣味に没頭すること、人によって様々ではありますが、それぞれの「幸せ」があるのだと思います。また、そうした「幸せ」は「豊かさ」とも大きく関わっています。それでは「豊かさ」とは一体何でしょうか。日々の暮らしに必要なお金など経済的な豊かさはもちろんですが、話し合える相手がいるというつながりの豊かさ、心地よい緑の中で過ごせるという自然環境の豊かさなど、豊かさにも様々なものがあります。そうした豊かさのそれぞれが人びとの幸せを形作っているのでしょうか。

価値観が多様化する現代社会において、「幸せ」とそれを支える「豊かさ」もまた一括りに捉えきれない多面的なものとなっています。そうした状況の中で、「ウェルビーイング Well-being」（身体的・精神的・社会的に良好で満た

されていること）への関心が高まり、行政においても政策立案や評価のためウェルビーイングの観点が入り入れられつつあることは、本誌の今号の特集にご寄稿いただいた皆様に論じていただいた通りです。

とよなか都市創造研究所においても、上に述べた状況を背景として、市民の皆様の「くらしの豊かさ」を様々な視点から把握し、今後のまちづくりの資料とするためのアンケート調査を実施いたしました。「くらしの豊かさ実感に関するアンケート」と題されたこの調査は、時々々の社会情勢の変化も踏まえつつ今後も継続して実施することを検討しています。本トピックスでは、今年度実施しました本調査の結果についてご報告します。

2. 「くらしの豊かさ実感調査」の概要

(1) 実施概要

令和6年度（2024年度）「くらしの豊かさ実感に関するアンケート」の実施概要は以下図表1の通りです。

トピックス

図表 1 令和6年度（2024年度）「くらしの豊かさ実感に関するアンケート」実施概要

期間	令和6年（2024年）7月10日（水）～7月31日（水）	性別			合計	
		年齢	男性	女性		その他 無回答
方法	回答依頼書を対象者に郵送の上、WEBにて回答	18・19歳	2	7	1	10
対象	満18歳以上の市民7,000人 (住民基本台帳から無作為抽出)	20～24歳	13	16		29
設問数	31問 選択式および自由記述	25～29歳	18	35	1	54
有効回答数	930件（詳細は右表の通り）	30～34歳	23	39	1	63
回答率	13.3%	35～39歳	27	52		79
		40～44歳	38	62	1	101
		45～49歳	37	73	2	112
		50～54歳	40	69	3	112
		55～59歳	34	54		88
		60～64歳	44	49	1	94
		65～69歳	30	40		70
		70～74歳	21	29		50
		75～79歳	16	12		28
		80歳以上	18	12		30
		無回答			5	10

(2) 調査項目

本調査のアンケートについては、幸福度やウェルビーイングに関する研究を参照した上で、豊中市の置かれた状況を考慮し、市役所としてどのような情報を得るべきかという観点から設計を行いました。その結果として以下の6つを「豊中市におけるウェルビーイング」のポイントとしています。「幸福」の内容は人それぞれ個人的なものも含まれますが、市で行われている施策にも関わる、人々の生活の基礎をなす内容に重点を置きました。

- ①健康：ウェルビーイングの基礎としての健康状態
- ②経済力：くらしを支える経済力
- ③仕事：就労の状況や大都市近郊の住宅都市として交通の利便性など
- ④家庭：家族の状況、子育てのしやすさなど
- ⑤人とのつながり：地域での人との助け合い、支え合い
- ⑥環境：身近な緑など自然環境との関わり、まちなみの魅力

そこで、以上に示した生活の基礎となる事柄の充実が市民の皆様の幸福度の上昇をもたらし、健康の増進や人々の交流の活性化、地域へのさらなる愛着など良い結果を生むのではない

かと想定し、調査項目を以下の通りとしました。

生活の状況を調べる項目として、基本的な属性（年齢、性別、居住年数、中学校卒業時点での本市への居住状況、居住形態、家族構成、雇用形態・職業、年収、居住する小学校区）、地域環境評価（利便性、教育・子育て、防犯・防災面での安心、住環境、人々のつながりや居場所、文化・芸術、運動・スポーツ）、暮らし向き（家計の状況）、健康状態（全般および精神的健康）、社会参加（会、グループなど）、地域の人びとへの信頼・利他性、地域での助け合いを設定しました。

そのうえで、現在の幸福度、5年後の幸福度、協調的幸福感（自分自身だけでなく、周りの人も幸せであることによって得られる幸福感）、生活満足度について尋ね、幸福度や満足度によってもたらされることを調べるため、健康行動、定住意向・地域への愛着、異なる世代の人びととの交流についての質問を設けています。

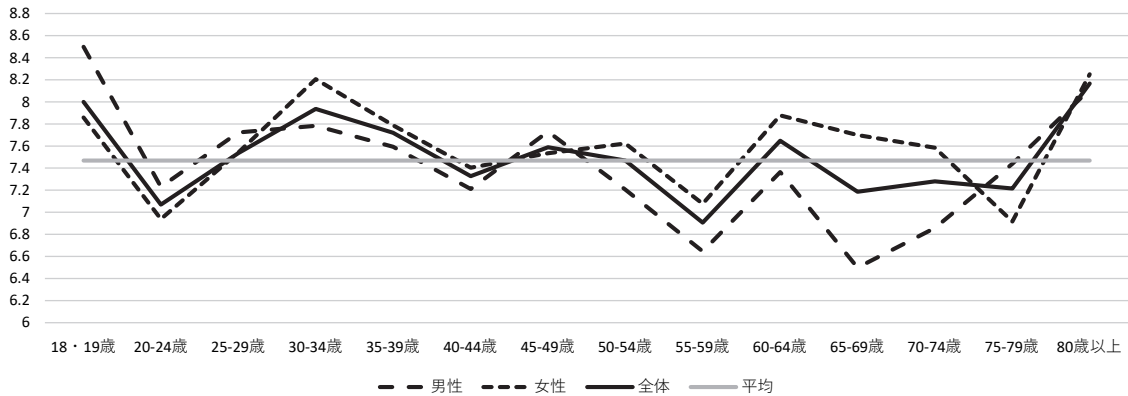
3. 豊中市民の幸福度

(1) 幸福度の分布

それでは、調査結果を見ていくこととしましょう。まず幸福度全般についての結果です。今回のアンケートでは幸せの度合いについて「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点

として、11段階で回答する形をとっています。この設問に回答いただいた925名の平均値は7.47で、中央値、最頻値とも8となっています。多くの人が、概ね幸せであると答えていると考

えられます。以下の図表2には年齢、性別ごとに現在の幸福度の平均値を示しました。なお、図表中央の直線は回答者全体の平均値を示しています。



図表2 年齢・性別ごとの現在の幸福度 (n=925)

図表2からは、年齢・性別ごとの平均値は回答者全体の平均値から極端に大きな隔たりはないことがわかります。男性・女性とも30-34歳で幸福度が比較的高い一方、55-59歳ではやや下がって行き、60代の後半では男女の差が開いています。

また図表にはありませんが、5年後の幸福度では、現在の幸福度と同様11段階全体で将来の幸福度を尋ねています。平均値は7.5で年齢の上昇とともに下がって行く傾向のあることが確認されています。

他にも協調的幸福感について尋ねています。これはもともと北米で開発された幸福度の尺度において日本人の幸福度が低くなる傾向があるため、日本人の文化的特性も考慮して作成された幸福度の尺度です。「身近な周りの人も楽しい気持ちである」など、周囲の人と同じように幸福であることを測るもので、全体の平均値は

45点満点中32.2点であり、年齢・性別による大きな変化は確認されませんでした。

(2) 暮らしの各分野と幸福度

続いて「豊中市におけるウェルビーイング」
として挙げた6項目について幸福度との関連を
みていきましょう。

①健康

図表3は、「全般的にあなたの現在の健康状態はいかがですか」という質問に対する回答ごとに、現在の幸福度の集計結果を示したものです。健康状態が「よい」「まあよい」と答える人で、幸福度8以上の割合が多くなっています¹。このほかにも精神的健康についても尋ねていますが、精神的健康状態が良いという人ほど幸福度が高くなっています。

¹ 図表のタイトルに付された記号は、グラフに示した集計の統計的有意性を示しています。集計に際しては回答状況(ここでは健康)による幸福度の違いが誤差の範囲として意味がなくなる確率を計算しており、その確率が低ければ回

答状況の差は確か(有意)だということになります。有意性を判断する確率をここでは10%以下とし、次の記号の通りに区分しています(***:0.1%水準、** : 1%水準、* : 5%水準、+ : 10%水準)。

トピックス

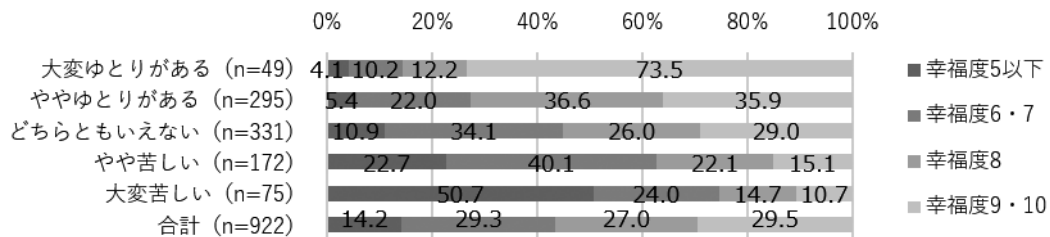


図表3 主観的健康状態と現在の幸福度***

②経済力

経済的な豊かさも幸福度を一定程度まで高める効果があります²。図表4は「現在のあなたの暮らし向き（家計の状況）についてどのように感じていますか」という項目と現在の幸福度を

集計した結果です。「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」で幸福度が高くなっています³。回答者自身・回答者の世帯年収が高いほど幸福度が高いことも確認されています。

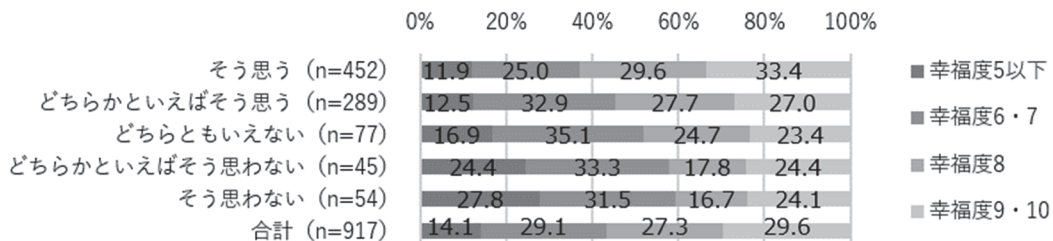


図表4 暮らし向き（家計の状況）と現在の幸福度***

③仕事

仕事については、「働き方」が経営者・正社員・自営業・家事専業の人は現在の幸福度が比較的高くなっています。仕事に関わる「通勤」に重

要な交通の便利さ（「鉄道やバスでの移動が便利」）と現在の幸福度の関係は以下の図表5の通りです。



図表5 鉄道やバスでの移動の便利さと現在の幸福度**

² 本誌の特集でも述べられているように「イースタリン・パラドクス」という現象があり、所得の増加による幸福度の上昇には一定の限度があります。

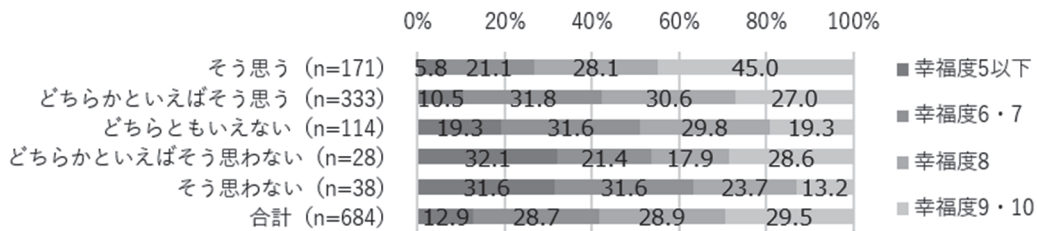
³ 5年後の幸福度においては、暮らし向きが「やや苦しい」「大

変苦しい」と答える人も、現在の幸福度に比べて高い点数を付ける人の割合が増えています。このように将来良くなるという希望をもつことができるという状況もまた重要なことであると考えられます。

④家庭

次に家庭に関する事柄として、「子育て」「教育」に関することをみていきます。図表6にある「子育てしやすい」という項目では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人の幸福度が高くなっています。図表にはありま

せんが「子どもの教育環境として良好」も同様です。なお、18歳未満の子どもの有無と現在の幸福度の間には統計的に有意な関連がみられませんでしたが。また配偶者の有無では「配偶者と離別した」と答える人の幸福度が低くなっている傾向があります⁴。



図表6 「子育てしやすい」と現在の幸福度 ***

⑤人とのつながり

人とのつながりについては、「自分が安心して過ごせる居場所がある」と現在の幸福度の関連を図表7に示しました。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人の幸福度が高くなっています。図表では示していませんが、

「住民同士のつながりがある」という項目も同様です。その他「スポーツ関係のグループやクラブに参加」している人や「地域の人びとは、多くの場合、他の人の役に立とうと思う」に肯定的な回答を示す人などの幸福度が高い状況です。



図表7 「自分が安心して過ごせる居場所がある」と現在の幸福度 ***

⑥環境

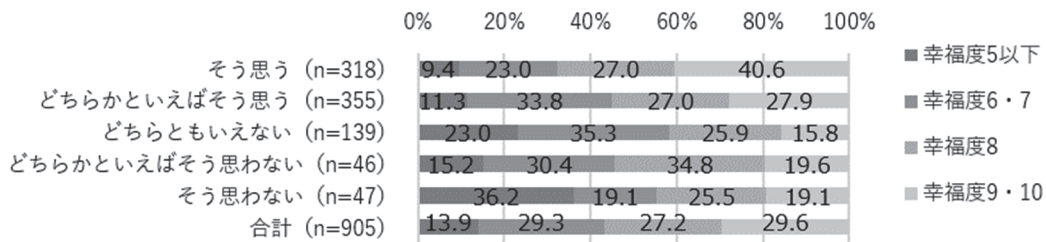
住環境については、図表8にあるように「身近な緑が充実している」という項目に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える人の幸福度が高くなっています。図表にはありませんが、「公園など憩いの空間が充実している」

という項目でも同様の結果が出ています。また「まちなみが魅力的」の項目でも肯定的な回答をする人の幸福度が高い状況です。他には「文化や芸術に触れることができる」「運動・スポーツをしやすい」という項目で肯定的な回答をする人の幸福度も高くなっています。

⁴ アンケートでは配偶者の有無について「現在、配偶者がいる」「いない(離別した)」「いない(死別した)」「いない(結

婚したことはない)」の4件法で尋ねています。

トピックス



図表 8 「身近な緑が充実している」と現在の幸福度 ***

4. 幸福度の背景について

ここまで、豊中市におけるくらしの各分野での幸福度の状況をみてきました。それでは、それぞれの分野の幸福度はどのように関連しているのでしょうか。幸福度の背景について、地域環境評価とのつながり、そして幸福度を規定する要因の2点からまとめました。

(1) 地域環境評価から

今回のアンケートでは、地域の環境評価として以下の図表9のア)～ソ)の各項目について尋ねています。その各項目の回答と幸福度の結びつきの強さを相関分析という手法で統計的に確認しました。分析の結果は相関係数という数値によって表され、ここでは相関係数の正の値が高いほど、各項目への肯定的回答と現在の幸福度との結びつきが強いことを示しています。各年代の回答者数のうち多くの方の回答によるもので、統計的にも有意です。

以下の図表9では、年代ごとに相関係数が高い順番に5つの項目を表示しています。各項目に付された数値が相関係数です。18歳から39歳では、「身近な緑の充実」や「まちなみが魅力的」など住環境の魅力と幸福度の結びつきが強くなっています。

これに対し、40歳から59歳では、「安心できる居場所」と「防犯面の安心」そして「良好な教育環境」と「子育てしやすい」というように居場所や安心感、子育てと幸福度の関連が強

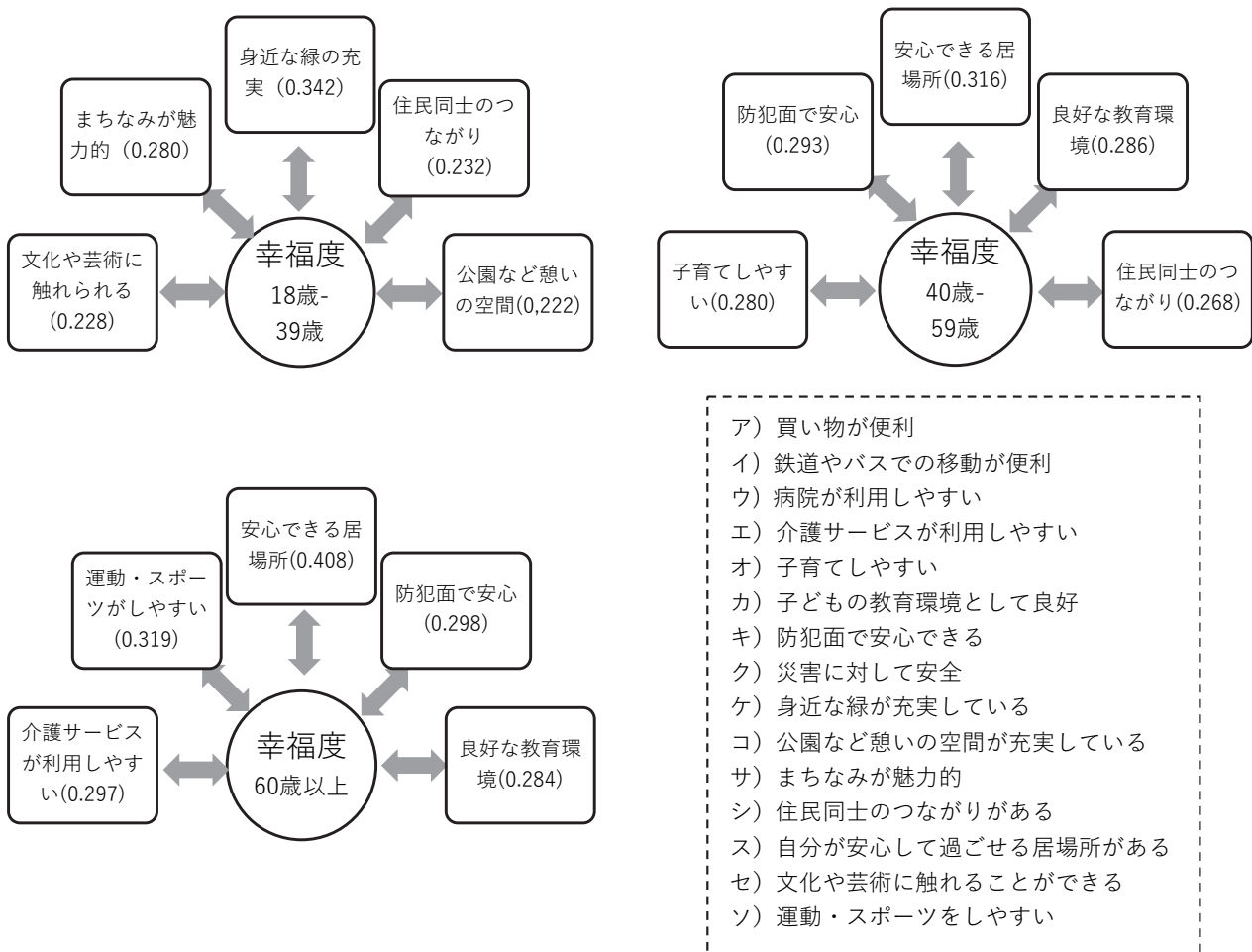
い結果になっています。

60歳から79歳では「安心できる居場所」と「運動・スポーツがしやすい」、「防犯面で安心」、「介護サービスが利用しやすい」と居場所や安心、運動や介護など健康面に関わる項目と幸福度との関連が強くなっています。図に示した他にも、買い物や鉄道・バス、病院の利便性も比較的強い関連を示しています。年代によって、幸福度と結びつく事柄が大きく変わることが分かりますが、「住民同士のつながり」など複数の年代にわたるものもあります。

(2) 幸福度の要因

ここまで取り上げてきた幸福度は、どのような要因から成り立っているのでしょうか。また各要因の間の影響力の違いはどのようなもののでしょうか。因子分析および重回帰分析という統計的手法を使ってこのことを調べました。分析の方法は専門的な内容となるため、ここでは結果を簡略化して示します。

まず先にも取り上げた地域環境評価の回答について、因子分析を用いて似通った回答結果を持つグループに分け、それぞれを「地域環境充実因子」（緑や教育、運動・スポーツ、安全・安心など）「地域環境利便性因子」（買い物や交通の利便性など）という2種類の得点に変換しました。この2得点と暮らし向きや健康（全般及び精神的健康）、市民参加（グループなど）、社会的凝集性（地域の人びとへの信頼など）、互酬性（周りの人との助け合い）もそれぞれア



図表 9 年代別にみた地域環境評価と現在の幸福度の相関

アンケートの回答をもとに得点化し、合計 8 種類の得点が現在の幸福度にどのような影響をもたらしているかを予測する重回帰分析を行いました。その結果を年代別に示したのが以下の図表 10 です。

紙幅の都合もあり、結果の解釈に必要な点についてのみ述べます。各年代とも、「係数」の欄から影響力を読み取ることができます。数値に付されたプラス・マイナスの記号は影響力の向きが正であるか負であるかを示し、数値の絶対値の大きさが影響力の強さを示します（なお絶対値が 1 を下回る場合、1 の位を省略しています）。数値に付された記号は統計的有意性を示し、得られた結果が誤差でない可能性の高い

ことを示します。

18 歳から 39 歳では暮らし向きと健康状態に有意かつ正の影響力を読み取ることができます。精神的健康の影響力が強いようです。40 歳から 59 歳では上記に加え、地域環境充実因子、社会的凝集性にも有意な結果が出ています。60 歳以上では暮らし向きと精神的健康状態、市民参加、互酬性が有意な結果となっています。年代が上がるにつれ社会への関わりが重要性を帯びてくるように考えられます。また 60 歳以上では周囲との助け合いも非常に大切な要因と受け取れます。先に示した相関分析と合わせ、幸福度の背景を示す興味深いデータを得ることができました。

図表 10 幸福度の要因に関する重回帰分析

	18歳-39歳			40歳-59歳			60歳以上		
	係数	標準誤差	標準化係数	係数	標準誤差	標準化係数	係数	標準誤差	標準化係数
切片	7.902 ***	.174		7.535 ***	.091		7.141 ***	.124	
地域環境充実因子	.287	.199	.149	.193 +	.109	.116	.063	.151	.034
地域環境利便性因子	-.069	.153	-.039	-.080	.107	-.047	.184	.147	.096
暮らし向き	.311 +	.162	.177	.261 *	.106	.153	.241 +	.141	.123
全般的健康状態	.344 *	.165	.198	.320 **	.110	.189	.155	.139	.081
精神的健康状態	.477 **	.148	.300	.515 ***	.121	.279	.522 ***	.155	.230
市民参加	-.063	.129	-.041	.013	.103	.007	.258 *	.103	.156
社会的凝集性	-.212	.181	-.110	.304 **	.104	.175	.216	.145	.108
互酬性	.025	.342	.006	.082	.108	.041	.702 ***	.137	.322
自由度調整済み決定係数	.266			.371			.431		
N	121			237			162		

+p<.10, *p<.05 **p<.01 ***p<.001

5. おわりに——幸福度がもたらすもの

ここまで幸福度について様々な角度から検討を加えてきました。これらの幸福度がもたらす結果として、今年度から始まった一連の研究では、定住意向や地域への愛着、異なる世代との交流などへのポジティブな影響があるのではないかと考えています。実際にアンケート結果でも、幸福度の高い人びとがこれらの項目でも肯定的な回答の多いことを確認しています。

またアンケートでは自由記述設問にも多くの方に「幸せ」についてお書きいただきました。

こうした数量データ以外の質的なデータも含めまして、今後も市民の皆様のくらしの豊かさを高めるまちづくりに活用できるよう研究を進めていきたいと考えています⁵。

最後になりましたが、お忙しい中、アンケートの回答にご協力をいただきました市民の皆様にご心より感謝申し上げます。また本調査の実施・分析に際しては、本誌特集にもご寄稿いただきました関西学院大学文学部総合心理科学科准教授の一言英文先生に貴重なご助言を賜りました。記して感謝いたします。

⁵ また今回の研究では、回答者の年代の分布が本市の総人口における年代の分布と異なる点が見受けられます。アン

ケートの回収率の向上や、分析上の補正も課題として残されています。